



2019.12.15  
クリスマスパーティ  
@ やまゆり

# おはなしじょんぐるーず BROADSIDE



WEB サイト



## バラッド!

それは英国などで古くから歌い継がれてきた物語歌でございます。

奥方様たちが大好きな騎士物語であったり、あるいは男女の悲しい恋の歌、かと思えば戦いの歴史や、ヒーローを待ちわびる民衆の歌、時には人生の教訓であったり、幽霊や妖精のお話だったり、はたまた凄惨な殺人事件だったりするのです。

それらは当時の吟遊詩人などによって広められ、今尚、我々の知る音楽の中に息づいているのでございます。

QRコードから各曲の  
歌詞・和訳が見られます

### The Cherry Tree Carol

さくらんぼの木のキャロル、と呼ばれるバラッド。15世紀には歌われていた、という記述もある大変に古い歌です。メロディーも、歌詞も様々なバージョンがあります。



中世ヨーロッパでは、マリアの夫のヨセフがあまり良く思われていなかった時期があったらしく、この曲でもヨセフはちょっと嫌な感じに歌われています。



### The Three Ravens & The Twa Corbies

2曲目はイングランドの古いバラッド、The Three Ravens (3羽のカラス)、3曲目はそのパロディとされているスコットランドのバラッド、The Twa Corbies (スコットランド英語で2羽のカラス)でございます。

バラッド研究の権威である、かのチャイルド教授は、この2曲をなんと同じ歌の別バージョンとしております。どちらも、カラスたち・死んだ騎士・猟犬・鷹・騎士の恋人が登場するこの2曲。

愛と忠義の物語であるThe Three Ravens、残酷で無常の物語であるThe Twa Corbies。皆さまはどちらがお好みでしたでしょうか。

ちなみに、Ravenとは日本語ではワタリガラス、もしくはオオガラスとス



チャイルド教授

スと呼ばれるカラスです。日本のハシブトガラスよりもひと回り大きく、大きいものだと翼を広げると1.5mもあるということです。



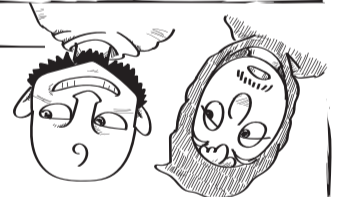
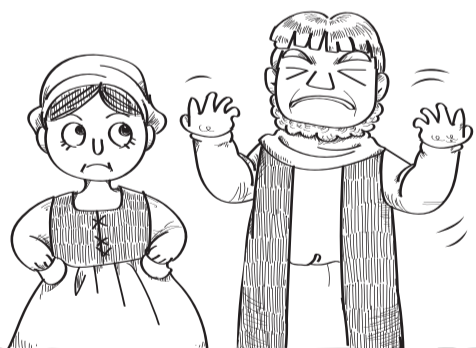
### Get up and Bar the Door

4曲目は世界中で見られる「だんまりくらべ」のお話のひとつ、Get up and Bar the Door (立ってドアを閉めろ) という中世スコットランドのバラッドでございます。“bar”とは、扉のかんぬぎを閉めることを指します。

言ってしまうと夫婦喧嘩の歌なのですが、ご存知の通り、夫婦喧嘩なんてものは大抵つまらないことがきっかけで始まったりするものです。

冒頭に出てくる“the Martinmas time”は聖マルティン祭と呼ばれ、11月11日に行われます。ドイツではクリスマス、イースター、カーニバルに次ぐ大イベントで、夕方からは子どもたちがランタンを持って歌を歌いながら練り歩くそうです。

歌詞の中で“gentleman”とありますが、どう見ても泥棒でございます。



### The Unquiet Grave

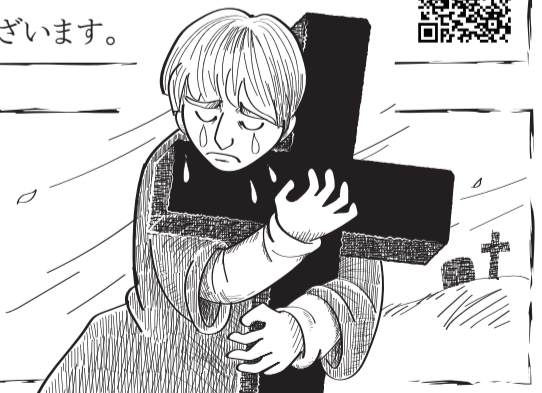
5曲目は、ちょっと怖くて切ない物語。タイトルは「騒がしい墓」という意味。

恋人を亡くしたばかりの男が、あまりに悲しみすぎて死者の眠りを妨げてしまう歌でございます。

ロマンチックな男と、亡くなってまでも現実的な女。それでも愛情は深く。

実は、男女逆バージョンもあるようです。

歌詞は新しいものの方が有名ですが、15世紀の古いものを選びました。



### Auld Lang Syne

最後は、おそらく日本でいちばん有名なバラッドでございます。日本では別れの曲として有名ですが、原曲は懐かしい友人と再会し互いに酒を酌み



交わす、というものです。海外では新年が開けた瞬間に皆でこの歌を歌います。

今日は1番と5番を原曲で歌いますが、

最後は是非、皆さまと一緒に

日本語で歌ってください!

